

てほしいです。
児童・生徒・保護者・担任・養護教諭が健康について見つめなおすことのできる大切な手帳と感じています。
小学校の場合、使用頻度が高く壊れやすいため本来なら子供が一貫して成長を見られるという点で出生～高校全て一冊というのが好ましいが分冊の方が保存に適していると思います。（時代の移り変わりで日々内容も変わってくるため分冊がいいです）
小学校入学前の情報が得られるのはありがたいが記入・管理等学校が全て行うことになっていて保護者の意識が学校にすべてお任せの状態になるおそれもある。子供の健康を管理し体力増進を図るのは、年少者は保護者、年長者（小学校中学年以上）は子ども自身が主体である。ということ意識づけなければならない。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学校、高校の学校単位の人数が多くなるので分冊が良い。大きさもあまり大きくてもかばん等に入れるのに負担がかかるが小さくてもどこへ入れたかわからなくなるので表紙の色にも気をつけてほしい。</li> <li>・ スポーツテストを記録、小学校でかかった届出伝染病など記録できればよい</li> <li>・ 今までに受けた予防接種が記入できれば良い</li> </ul>
健康手帳は子供の成長の様子や健康状態が継続して記録できるもので資料は必要最小限にしたほうが扱いやすいし活用できると思う。何もかも入れようとすると保管にも困り活用もしにくくなる。
既往症や身体の発育・発達については健康診断票や保健調査票で把握でき、個人の記録なので出生から高校までの記録をまとめて持たせるのはプライバシーを守れない危険性が大きい。母子手帳も家庭の事情により子供には見せられない場合もあり、ましてその中味（個人の記録）を学校側が見ることはできないと思う。
長期間継続して使用できると便利であるが保管等に問題が起きてくると思うので分冊にして記録し、家庭でファイルしていくような形が望ましいと思う。
出生～大人になるまで使えることが理想だが紛失が考えられる。再発行が大変なので学校単位くらいが良い。また健康状態だけでなく万一の病気と外傷のための緊急連絡先及びかかりつけ医がついていると便利でこんな形のものなら使いたい！「健康カード」「緊急連絡カード」が合体した形です。こんな形のものができるのが夢です。
新しく健康手帳をつくるよりも現在使用している健康カードの工夫をしたほうが良いと思う。
活用していくことが現在の学校では難しい点が（時間的に）多くあるのが現実の姿であると思います。
主旨はよく理解できるものの、事務量・セキュリティー・家庭での保管を考えると実際に学校現場でどれだけの学校が使用できるのが問題です。保健学習も始まりワークシート等資料を使用しているところもあり重複しないか、煩雑にならないかなとも考えてしまう。
学校に保管して学期毎に家庭へ持ち帰らせて捺印・回収する方式の健康手帳では自己管理能力を育むなど実践的な健康教育に生かせることは少ない。紛失や破損の危険性はあるが家庭に保管して日頃から手にとってみることができるようにさせたい。そのためにはバインダー式の、綴じて追加していく形がよいと思う。
健康に関する意義が高まり自己管理能力を育てるのに有効だと思う。
以前にも健康手帳の話が出てきて立ち消えになったり、全国的にも一部の都市でしか使用がされていないことの大きな理由の一つに煩雑さがあげられると思う。例えば「記入の殆どを養護教諭で」となった場合、有効的に利用することは難しくなってくることは必至である。2005年の全教室へのコンピューター導入などIT化が進む中、データ入力をするにより治療勧告データ処理、グラフ化等管理がシステムチックにできるようなソフトとセットされたものなどそれを

使うことで他の保健管理指導とともにできるようなものを工夫していくようなものがこれからの時代に合うものになると思う。(もちろんプライバシーやデータ保護を前提として)

健康手帳活用で自己管理ができ、よき生活習慣への取り組みができると思われるが管理の面で紛失の場合も考えられ、プライバシー保護の面や再発行等の方法等心配の面もある。

作成・記入・管理・プライバシー等充分な検討が必要、回答が難しいです。「児童の学習」にも活用するのであれば、養護教諭が必要とする細かいデータは記入できないと思う。作成されてしまうと個人的に記入したくない保護者が困ると思うし・・・学校とはどこまで個人のデータを必要とし活用できるのかいつも迷う。

本来児童生徒の健康は親が管理すべきで学校での健康管理は集団で学校生活を送るために必要な範囲で行うものだと考えます。よって主は保護者・学校は連絡、健康情報を保護者や児童生徒へ返す立場を明確にしてほしいと思います。

出世時からの個々の健康状態が把握でき、保健管理や保健指導等に役立つと思います。家庭と連絡しあうことも大切ですがプライバシー保護の面で保護者が同意して記入提出するのか、また回収時に紛失して年々回収率が減少しないか、管理面で大変気になります。(紛失した際の取扱い等も)

- ・病気や障害と共に生きている児童生徒に配慮した健康手帳であってほしい。
- ・保健調査と兼ねる場合は児童生徒の身体(健康)に関する情報は必要最小限にし、プライバシーに配慮する視点で作成

健康手帳については健康の記録のみにした方が使いやすい。指導事項などあまりあると活用しにくい。

学校独自の健康つうしんカードを使っています。授業に使うようでしたら内容を検討して使っていきたいと思います。

学校が作成する健康手帳は本人の成長を本人や保護者が確認できればよい。各学校が実態に応じて作成すべきと考える。また個人情報を学校がむやみに活用し保護することができなかった場合、本人や保護者を大変傷つけてします。学校が把握する個人情報は必要最低限であるべき。

出生から社会人までとあるが私がいる小学校現場でも出世時からの健康状態を文書で把握する必要はないと思う。必要があれば保護者との連携で充分把握できる。プライバシー保護の問題を含め、画一的な健康手帳は不要であると思うし、地域や学校実態に合わせて学校に任されるべきであると思う。

・出生からずっと一冊のものになるとこの手帳がその子にとってマイナスに作用することも多くなると考える。保護者との連携は手帳を通してではなく、重要なことは直接会って話しをすることが一番重要であると考え。特に出生等の面で様々な問題が起きることはありうる。

・健康手帳は保健指導的な内容を含めると量が増え利用が難しくなりやすい。母子手帳が小学校からは利用しなくなるので小中のみのもので本人の成長の記録がわかるもの、予防接種は何をしているか、はしかなどの伝染病の罹患状況が記録されているものがよいと思う。(記録としてとどめておく必要があるもののみ)

・多くの項目があると大規模校では、この記入に時間を随分とるようになるので、子供とのかかわりに影響を与えかねない。

健康の問題は個人のプライバシーに関わるものだと考えます。保護者や本人が知っていれば良い個人の健康の情報を多くの人の目にふれる心配のある「健康手帳」という形にすることは賛成できません。また健診は健診を受ける本人のためのものであり、健康管理を強化するためのものではありません。子供の健康指導はひとりひとりの状態に応じ、保護者と連携しながら行うべきものと考えます。

成長期の小学生に対しての保健指導として、体のことを記録していく必要性は感じます。これまで通知表に身体計測の記録を記入する欄がありましたが数年前なくなりました。成長や体の記録もなおざりにはできないので健康手帳があると意義深いと思います。殆どの学校で健康手帳に代わるものを使用していると思います。健康手帳が記録簿とするもの、保健指導まで兼ねるものこのふたつの役割を果たせば理想的だと思います。学校で工夫して作っていますが国から与えられた形式で定着していくこともよいことだと思います。しかし学校独自で作ったものも温かみがあっていいのではないかと思います。

この健康手帳は私も15年くらい前に色々な目的に応じ工夫し一生懸命作成しました。しかし効果的なものと考えれば考える程、個人の責任である健康にどこまで関わればよいか・・・子供たち後ろにいる保護者への対応を作成して起こる問題も大きかったです。作成するに当たっては本当に重要なデータとなり得ると考えられます。今後この情報化社会でのデータ管理にも不安があります。

何らかの義務や管理のための健康手帳の必要性は感じません。「健康」はあくまでプライベートなものであり、その意味も個人によって千差万別だと考えています。また「健康」と関することについては本人の意思を第一に尊重すべきであって他からの強制などは考えられません。学校は家庭と連携して子供が自分にあったよりよい健康生活を考え実践できる力を育てる場です。本人の意思は「健康手帳」では育ちません。

小学校等において、数年継続して管理しなければならない心臓や腎臓等の疾患においては、すでにきちんと管理されていると思う。その他の健康診断の項目において、健康手帳で管理する必要はないと思う。健康手帳は必要とは思わない。

主旨には賛成できるがこれを学校現場で取り入れるには無理がある。あくまでも出生から高校までの生涯必要となる記録とし、家庭での健康管理の資料となるものを望みます。(予防接種記録・成長の記録・学校伝染病の記録等)

自分自身の健康チェックができる手帳。自分自身が体力づくりができる手帳等と併せて作成できないでしょうか

一冊ですべて記入できるようなものが望ましいが紛失やプライバシーの保護から見ると保健調査項目、健康診断結果。児童生徒が活用できれば身長・体重などの測定項目などそれぞれに分かれる7枚的なものの方がよいかもしいと思います。

本人が管理するのが最良だと思いますが管理能力のない保護者も多いことを知っておいてほしい。全員管理することは難しいと思います。

現在学校で使用しているカード(村教育委員会で印刷)は健診項目が変わったりその他必要が生じた時に見直し、何年かおきに印刷をしておいている。記入必要項目も市町村により異なるので全国や県統一の様式は使用しにくいと思われる。学校で把握した情報以外の出世時、乳幼児期の情報を記載したものを学校で保管することはプライバシーの保護上心配であるので作成に当たっては配慮が必要と思う。

記録手帳を誰が使用、活用するのか目的をはっきりしてほしい。「プライバシーを守ること」自分のことを知るためであるのなら児童生徒も記入活用できるように。用紙が多くならないものがよいと思う。分冊が望ましいのかな?「紛失しました」ということがないような取り組みも必要。今までの記録は小学校(1-3年、4-6年)中学校(1-3年)の計3冊になっている。高校は不明。

自分の身体は自分で守る意識を小さいうちからつけさせる意味でも大切なことと思います。母子手帳を紛失する家庭も最近多くなってきています。「大切なもの」という意識を初めに母親に持ってもらいたいと思います。

今の母子手帳は母親の健康の記録と、子供の健康の記録が一緒になっているのが難点。生みの親が育ての母であると限らない。色々な事情があり過去の記録、他人に知らせたくない記録がいつまでも付きまとうのはよくない。

<p>学校独自でプリントを入れられるようなファイル形式が良い。学習や指導(健康関係)中心の内容のものにしたい。</p>
<p>健康手帳は多目的な活用ではなく、単純なものが良いように思う(学校)。医療的な項目はできるだけ入れないようにして、学校で行った健康診断の結果を知らせる内容。保護者との連携がとれる内容になるとよいと思う。乳幼児期の情報はあったほうが良いが、保健調査との関連も検討が必要。ファイル形式になると乳幼児期から社会人になるまで健康情報を本人がファイルに参考にできるように思う。</p>
<p>母子手帳はとても大切なものです。私はいつも保護者に「母子手帳を参照して」とか「母子手帳にも記載を」とか、事あるごとに呼びかけています。かといって手帳の記載内容の何が必要なのでしょう？自分の体のことはプライバシーそのものです。人に伝えなければならぬ時は自らの口で伝えればよいのです。健康カードも今、悩んでいます。どこまで記載して残しておいてよいものなのか…。情報公開の時代、本当は何も残さない方がよいのではないかと悩んでいるのです。</p>
<p>家庭に健康の記録があることが必要なので、記録を家庭で転記するか記録用紙を貼付する。</p>
<p>検診の結果、治療が必要な場合は個々に知らせるので、健康カードにあえて定期健診のすべての結果を記録する必要はないのではと考えます。</p>
<p>出生から高校まで長く使用するものについては、身長・体重など計測、予防接種、感染症、既往歴くらいの基本的な記録にとどめるのが良い。学校には学校で保健指導など、やりたいことがあるが、それは小学校だけの独自のもののほうが使いやすい。</p>
<p>使用目的が多すぎるとかえって使いにくいものになってしまう。</p>
<p>出生時～学童期～中・高生と継続した健康手帳作成の動きがあることは、とても素晴らしいことだと思います。</p>
<p>母子手帳～成人手帳への間にはいるものの記録として考えていきたい。</p>
<p>学校では現在使用している「健康カード」「健康診断票」で充分だと思います。「母子手帳」～「健康手帳」へなどは個人のプライバシーの問題もあり、もし行うのであれば家庭内の管理が望ましいと思います。</p>
<p>学校で使用しているものがある限り、新しくして作成して事務作業が増えるのは養護教諭としては負担が多すぎます。</p>
<p>たとえば大人になって成人病にかかったとしたら、小さい時の体重が多すぎたのがいけなかったのだ、小さい時から生活習慣がだめだったのだ、と言われる資料になりかねない。その子のその時の健康状態をのりい過去にまでさかのぼってしめつけることになる。また住基ネットに個人情報として、いれるのは問題(プライバシー保護)個人の健康は国が管理すべきではない。</p>
<p>生涯にわたる健康管理という主旨はわかりますが、今現在の学校と家庭・児童との保健情報のシステムも尊重して欲しい。健康管理の主は家庭にあるという原則をもっと重視したものにしたい。</p>
<p>記入が手書きにならないのがベスト。プリントアウトしたものを貼り付ける形を望む。</p>
<p>あくまでも、本人及び保護者の活用による健康管理のためのものであってほしい。</p>
<p>予防接種歴等、本来 保護者が管理すべき情報については、その旨、啓発していく必要があると思います。(海外では、様々な予防接種歴を問われる機会があります→受診、入国の際に)</p>
<p>保護者には母子手帳につく子供たちの成長を知る大事な資料として話しています。</p>
<p>健康管理は自分で行うことを考え、健康手帳には自分自身(又は保護者)が学校での記録をみて記入していく。そして活用としては病気等で医療機関を受診する時、持参し診察に役立ててもらおう。健康手帳が出来たとしても義務化でもしなければ利用されないままになってしまう可能性があるのではないのでしょうか。</p>

食についての項目があればよい。
母子手帳から一冊のものとなると学校で使用する場合、プライバシーの点で問題が生じるのではないかと。健康手帳は主に保護者、児童が自分自身の健康管理を見つめることから考えたほうがよい。
現在の健康手帳は他のカード等と重複しやすく、使いづらい。また紛失しやすい為、必要以外に家庭に戻すことがないため、使われる場面が限定されている。また色々な場面で使えるよう内容を豊富にしても使いこなせない場合が多い。
身体測定回数、眼科検診、歯科検診回数など、学校の健康の課題により様々な形式が考えられ、統一するのは大変だと思う。あまり細かく内容を決めるよりは雑にしておくほうが良いと思う。肥満度の表し方もどのような方法で決めるのか、検討することが多いと思う。
健康手帳の記入、保管は基本的に本人（保護者）であり生涯にわたって自分の健康の保持増進の為に活用できるものでありたいと思います。
健康手帳はあくまでも個人がそれぞれの健康づくり、健康管理にいかし、プライバシーが保護されるものでありたい。児童・生徒・保護者が記入保管し、それぞれが主体的に活用するためのもので、学校で必要な検診の結果を保護者に知らせるカードとは別の形（冊子）にしたい。
母子手帳に続く成長・発達の記録と保健学習等の健康学習への活用を目的とした記録では、その内容や記録、保管が全く違うと思う。台東区では学校教育で活用する「健康の記録」「保健調査」とは別に保護者が活用する「健康手帳」を作成し、家庭で活用している。
以前、勤務していた他市で独自のものがありましたが、学校ではほとんど活用していませんでした。プライバシーの問題や管理が難しかったようです。

## 中学校のアンケートから

母子家庭・父子家庭も多く、小中学校まで手元にあるか疑問。大切なものになるよう工夫してほしい
母子手帳もみたことがない生徒が多い中、健康手帳は難しいと思う
生活習慣のチェックや精神面の成長などがみられるエゴグラムのようなもののチェックにより生活をみつめ振り返れるようなもの
生涯継続して利用できる手帳が良い
健診結果をコンピューターに入力し、個人のをプリントアウトして貼るような形
生徒自身が心理的に苦しかったりつらかったりしないよう内容を検討するべき
健康手帳は自分の身体に関心を持ち、自分を大切に生きていく必要ではないかと最近感じている。内容による。
子ども自身が健康について自己管理ができるような健康手帳ができればうれしく思います。
ある程度全国共通だと保護者の意識が強まる。やはり大切なもの（留学の時など記録が見られるなど、利用はある）という意識を高めたい。
健康手帳を記入するのは養護教諭になるとは思いますが、保健室の多様な煩雑さの中で記入するのは大変だと思われます。記入するのならなるべく簡素な形式にしていだければと思います。
20年前に使用していましたが親がみていなかったり管理が難しかったです。労力を費やす割には成果はなかった記憶があります。

健康手帳が使用中もそして成人した後も個人の健康管理に役立つように工夫されていると手帳の存在意味も大きくなると思います。
健康については個人管理・組織でやるには無理があると思います。かくしておきたい病気や先天的なものもあるしまだ工夫が必要だと思います。
地域差があると転出入の時に不便。全国的に統一されたものがあると助かります。
健康診断の内容が年々変化してきます。それに対応できるものであってほしい。(現在9年間使用できるものを使っているが中学校へ来た頃には合わなくなっていることもあるので)
一冊の手帳に出生～記載ができる形式にすると情報部分の更新が難しくなるのでは。
健康管理を継続して使えるような健康手帳が必要と思っています。学校でもいくつかのカードを使っていますがそれが一括して管理できるものであればと思います。精神疾患やアレルギー等色々な病気を持つ生徒が増えていることも事実です。是非作成してほしいと思います。
外国など出かける機会が増えた現在、自分の予防接種暦が不明だと困る。そういうときに乳幼児から継続して使用できる手帳があると安心だ。ツ反、BCG接種でなくなったし予防接種率が低下していることも予防接種に関して特に必要を感じている。
健康手帳を作成するのであれば他の類似したカードを必要としない。これ一冊に個人のすべての健康の記録が載っている内容のものにしてほしい。
活用するために目的がはっきりしていることが大事であり、このアンケートの回答が欲張りすぎたように思います。活用できて負担にならない健康手帳を望みます。
カテゴリー形式になっていて1枚1枚がとりはずし可能なものが良いと思います。例えば「発育測定」「歯科関係」「予防接種」等、項目ごとにわかれていてとりはずすことができると便利だと思います。
予防接種等も学校単位ではなく個人で医院へ行き、接種するようになりつつあります。母子手帳と同じ扱いにするのなら個人での保管がよいのではないのでしょうか
あくまで児童生徒の健康管理や健康づくりを主体的に取り組む補助となるものであり、活用価値の高い内容のものを望みます。そのためには児童生徒・担任・保護者・養護教諭の四者みなが入力できるものが利用しやすく効果も高いと思う。
大切な手帳が一冊になった場合、損失したときのデータ喪失は多い。だから分冊形式が良いのではないのでしょうか
活用しやすいものにするともに「活用のマニュアル」を提示してほしい。
学校で健康手帳を使用するのは反対です。プライバシー保護がさげばれている昨今、個人情報漏れることもありえます。子供の健康は父母が管理するものだと思います。健康診断の結果はその都度報告していますので、健康手帳の必要性は感じません。
人権やプライバシーの問題等いろいろ懸念されることがなく、学校での管理・取扱いは賛成できない。
生涯学習とし自己健康管理と日常生活に関連付ける身に尽かさせることを目的とする
個のプライバシーなど人権的な面から考え手帳は不必要と思う。また入ってきた場合の管理・保管など学校現場では難しいと思う。
この一冊を見ればその子供の健康状態が全て把握できるというようなもの、また学校と保護者がこの手帳を使って気軽に健康に関するやり取りができるようなものであってほしいと思います。

自分のからだについて知らないこと、知りたいことが各生徒抱えているように思います。いい情報提供ができないかいつも苦慮しています。
あくまでも児童生徒及び保護者が健康管理するためのものであるべきだと思います。
義務付けされると養護教諭のかなりの負担となってくる
記録を貼り付ける紙面も必要だと思う。
シンプルで機能的な手帳を作成してほしいです。
発育測定については発育曲線が印刷されたものが必要と思う。低身長等学の早期発見、早期治療に結びつくと思うので。
内容の充実は大切であるが使用しやすいことが一番大切だと考えます。
最近子供の生活習慣病が増えています。健康手帳をもとに児童生徒の発達段階に応じて自分で成長グラフを作成する等自分の成長を喜び、健康指導に活用できるようなものに。
学校に入ってから可能性もあるので大切な記録である母子手帳とは分冊すべきと思います。
学校就学時は文化省に属するがもっと厚生省との連携をとるべきだと思う。開かれた情報交換と、共同計画をあげ研究会や交流の場を作っていけたら「生きる力」の育成につながると思う。
必要ありません
個人情報に関しては家庭の考え方が千差万別な中、扱い方に難しさを感じる。生涯教育、健康管理を考える上では良いと思うが
健診内容や必要事項の変更も多いので柔軟に作り直せるものに。
母子手帳、健康手帳、老人手帳と継続することにより自己の健康管理ができ早期発見や治療等もスムーズに行えるようになればよい。自分自身の健康の振り返りと生活習慣病等の予防が確実にできる資料作成を望みます。
台東区の「児童生徒の健康手帳」が良いと思いますが、事実を記入しつづける保護者の啓発も必要…です。
成長、発達の著しい思春期の記録(情報)を継続して管理でき、その後の健康生活に生かせる手帳は貴重だと思います。海外渡航の機会も多くなると予防接種歴も大切な情報にもなるし、個人の健康意識を高めるためにも手帳は有効手帳だと思います。
内容をたくさん盛り込んでも結局は活用しないので、必要最低限の項目とする。基本的には母子健康手帳の延長上にあるもので良い。母子健康手帳自体、全国的に定着しているので、大人になるまでのプラスαの部分があればいいと思う。 E x . 成長の記録、予防接種の記録、伝染病の既往記録 等。
現在の母子手帳にプラスアルファで小・中・高の結核、予防接種、伝染病、生涯必要なものだけ記入できるものがあればいいと思います。記録用と資料用、2冊にわけ家庭で保管する。現中学生ですでに母子手帳が紛失している生徒が何名もいます。保管が心配ではありますが一生涯をかけて大切な宝になると思います。
内容について…あまり欲ばらず、健康管理に主眼を置いた内容にとどめてほしい。
健康手帳には学校から送られる検診の結果を保護者と一緒に記入(小学生)、中・高になってからは、本人が記録を自分で行い保管に努めるべきだと思います。
自分の健康について今まで以上にわかってもらえるといいです。興味・関心があればいいです。
学校で実施する保険内容ならば手帳というものは必要ないような気がする。

<p>学校では現在の健康カードで充分である。カードと手帳との二重の記載を学校ではできない。生徒が自分で記入する時間の確保も難しい場合がある。男子と違って女子は月経不順の問題が大きいので男女で違った記入方法のカードを工夫してもいいかと思う。生徒の健康管理において保護者の意識を高める為に学校からの結果通知を本人・保護者が記入し家庭で保管の方が良い。病院での受診記録等も書けるようにしておくとう便利かと思う。</p>
<p>母子健康手帳のように、ライフサイクルに応じた健康教育をできるような資料をもちこんでいただくと、学校で活用し易い。紛失してしまう家庭もあるので、目立つデザインの表紙等、工夫をお願いしたい。</p>
<p>このような重要な情報について、学校で全て記入して保管することは望ましいとは思えない。保護者の責任において記入し、または学校からの結果は手帳に貼ったりする形式であればよいのではないか。</p>
<p>昭和30年代から「健康手帳」が言われてきているのに、定着しないのは使用しにくいからだと思います。年月を経るにつれて、使用しやすいものに工夫されてきているので、あえてこだわる必要はないものと思われる。</p>
<p>自分の健康について「この一冊をみるとまとまっている」といえるような、例えばリングファイルのような、後からファイルしていけるものも良いかと思う。</p>
<p>今まで結核検診でBCGを接種するときBCG歴を調べる必要があった。小学校より前のものは学校では調べようがなかったため、保護者に連絡をとったりと大変だったので、出生からのものがあると良いと思います。</p>
<p>保健調査、緊急時の連絡等は管理面(プライバシーの保護も含め)活用面からも健康手帳とは合冊にしない方が望ましい。</p>
<p>母子手帳のあと継続して家庭で記入できるようなタイプがいいと思う。プライバシーに関するものだけに、記入や管理は、各家庭でやるべき。</p>
<p>台東区の実例を興味深く見せていただきました。「保護者のみなさまへ」の内容が実現できれば、理想的と思いました。が、なかなか、家庭にそこまで期待できないように思いつつ、アンケートに答えました。</p>
<p>現在使用している保健記録カードでさえ一度家庭にもどすと回収がなかなかできず、紛失してしまう生徒も多いため、別に個票を渡している。家庭がしっかりしないと、使用できない。あくまでも家庭用として使うなら別だが。</p>
<p>健康手帳の使用目的によって記入や保管の仕方も変わってくると思います。主に学校で使用していくものなのでしょうか？</p>
<p>健康手帳はお薬手帳と同じように家庭における健康管理の資料になればよいと考える。</p>
<p>学校側が記入や保管をすると健康診断票とおなじようになり、主体的に健康づくりに活用するという部分が弱くなるが、かといって本人に全てを任せると未記入、紛失等で充分活用できるのかも心配である。</p>
<p>小さい頃の予防接種の状況や既往症などがわかれば良いと思うことがよくあるので、出来れば活用できるのではないか。</p>
<p>活用されないと何にもならないので、十分活用され、しっかり保管されるよう、家庭への啓発がとても大切だと思います。</p>
<p>健康手帳は個人を管理する為にあるのではなく、あくまでも自分の健康を知る為に使用してほしいと思います。</p>
<p>母子手帳や小中学校で使用していた健康手帳、さらに高校、大学と生涯にわたって自分の健康の記録が残せるような形式の健康手帳が出来るといいと前から思っていました。</p>



保護者は忙しい。必要性を感じていない等の理由で予防接種など中学校段階ですっかり忘れてしまっている場合も多い。全ての子が国全体で大切に育てられるように、親の手だけではなく保健所・学校も子供を育てるという視点で健康手帳を作成されることは、とても意義あることだと思う。ただ、プライバシー保護の面ではとても心配ではあります。
出生からの記録の入った大切なものを学校で保管することはできない。手帳は個人で保管して欲しいと思います。必要な時のみ持参するといった使用方法が良いと思います。
他の冊子とは違い大切な一生ものというイメージのものにしたい。
既存のもので間に合っている。本人や保護者に返しても活用されることは極めて少ない。
保健調査票 <sup>㊟</sup>
「健康手帳」の使用により学校が生徒の保健管理・指導を行うことは実際には難しいと思います。予算削減されている中、あらたに事業をおこし必要順位の高いところに予算がまわらなくなることが心配です。
毎年、新1年生には保健調査票（既往症や予防接種の有無、緊急連絡先など）を記入していただいているのですが（保護者に）小学校から、そのままのものを続けて使用したほうが小学校時代の事がよくわかると思います。それに検診結果も自分で生徒が記入できるものがあれば生徒が自分の成長を目で確認できてよいと思います。
生まれた時からの一冊の記録帳があることはとてもよいことだと思います。台東区のように家庭で記入し家庭保管で、学校では区で作成したものに必要事項をそこから書き写してもらうほうが使用しやすい。（健康手帳の破損・紛失・保管の問題等）
「母子健康手帳」と「健康手帳」が同じ意味あいを持つのであれば記入・管理は保護者又は本人及び主治医が行うべきこと。
記入する形式ではなくのりづけしたりできる形式がよい。又、結果等をいれておく袋もついているとよい。
健康手帳の活用よりホームドクターの充実や保健所の活用をもっとしやすいようにしてほしい。
母子手帳は保護者は大切に保管していると思うが、小中学校の健康手帳は紛失等が多く、再発行が多い。
児童・生徒・保護者が健康に対して関心を持ってもらうために資料等を見ても理想的な手帳であり、活用したいと思いますが活用・保管等のことを考えると事前に十分な保護者への理解を得るための手立ての必要性を感じます。
各健康診断の結果が保護者へきちんと伝わると思うので、健康手帳を活用したい。
健康のデータを生徒一人一人が知り、活用するには健康手帳はいい手段・方法と思うが、プライバシーの感覚を育てていかないと、問題が生じてくることもあるのではないかと。
教材というよりは、子供の健康管理に役立てられたらと考えます。持病等の管理、診断結果の記載等でできれば有難い。
児童生徒が自分に身体や健康について知り、一生を健康に過ごそうとする意識づけになる。また、健康情報等も加えられると、とても役立つものになると思います。
発育状況の把握、健康管理など、漠然としたライフスタイルの再確認できるものになりますよう願っております。
健康の記録として健康手帳はあったほうがよいと思うが、生徒に記入させる場合はその時間確保が必要である。項目によっては養教や担任が記入する場合もあるが、自分の健康について関心をもたせるにはやはりきちんと時間をとり、指導しながら記入させないと形式的になってしまう。

## 高等学校のアンケートから

社会人になってからも記録することができ、病院等への診察に行った時に便利だと思われる。継続的に記入することに

より「健康」に対し関心度が増すのではないか
身体的なことだけでなく心の問題も同時に考えていただきたいと思います。
長期間の使用であるため表紙及び内容の材質を上質
高校卒業後も自分の健康管理の資料としてまた成長の思い出として本人に渡してあげたいと思います。
健康手帳そのものに魅力がないと利用されないと思う。(生徒が主体的に使う面から考えて)「この手帳は私の大切なもの」と思えるようにデザイン・大きさなどに工夫があるとおもう。(今時の若者向けに)
自己管理のために自分または家族と記入するのが一番良いと思うのですが記入が徹底できるかどうか心配です。学校で記入・管理するとなるとプライバシーの問題があるのでそこが難しいところだと思います。
現在、学年クラス別の健康診断結果一覧表で保健指導、健康相談、家庭との連絡等十分に対応できている。
学校に健康診断票に関わる整理が大変な上にまた健康手帳もというのでは良い活用方法は難しくなると思うので重複しないようにより良い活用ができるような様式で作成してほしい。
各学校で健康診断結果をパソコンに入力しているがそれを健康手帳にも記入できるような手帳の様式にしてほしいと思う。
健康手帳の使用目標からすると、本人(特に高校生ともなると)が主体的に使用するのが望ましいと思います。が生徒がきちんと活用したり保管できるのか、保護者や学校が必要時にその手帳をみたり連絡時に使用できるのか疑問に思います。また保健室で養護教諭が記入、保管するのは健康診断票や保健管理票等となら変わらないので手帳の意味がないのでは?と思います。
使用する本人(児童生徒)が主体的に健康管理できる内容であって欲しいと思います。
学校現場の実態、生徒の実態をご理解ください。記録については公簿への記録で十分です。発育測定や健康診断の結果についてはそれぞれ保護者へ文書連絡をしています。生徒全員の健康調査も再三行い、十分健康状態を把握し、本人・保護者への連絡も十分行っています。二重、三重の記録の必要はありません。不必要な事務処理をふやすことで、私たち養護教諭本来の仕事が出来なくなっているのが現状です。もっと、じっくり、生徒の話をきいてやり、人としての十分なかわりが大切な時期なのです。
個人の健康管理を主体にするのか、学校における管理を主体にするのか、健康手帳の目的をはっきりさせることで内容は決まってくると思いますが、記入者、保管者、連携がうまくとれるかなど、問題点は多いと思います。
現在は必要性を感じない

#### D. 考察

昭和36年に出された文部省(当時)局長通知による健康手帳は、現在、健康診断の結果を記録する公簿と、家庭と学校の間でその結果を連絡する手段となる健康カード、さらに家庭からの保健調査票の3種類に姿を変えて実施されていることが多い。一方、局長通知にあった参考案が進化していき、本来の目的を超える存在となった独自の健康手帳を使用している地域も全国に多く存在することもわかった。

小学校、中学校、高等学校の保健学習、総合的学習時間、さらにはホームルームなどで行なわれる保健指導は、児童生徒の発達段階によりその内容と理解度が異なるため、その目的に使用することを考慮すれば分冊であることが望ましい。小学校だけでも2、3冊を必要とする。

「生涯を通じた保健事業の一体的推進」という健康増進法3本柱のうちの1つを担う、新しい学校健康手帳を考えていく上で、以下に述べるように重要なポイントが見えてきた。

- ① 小学校入学以降、中学校さらには高等学校以降にも連続して使用できる手帳を作成することにより、自身の健康管理を行なう環境が整えられる。
- ② 小学校時代は保護者とともに、中学校以降は本人が中心に自己の健康記録をつけていく。家庭内で健康を意識するきっかけとなりうる。
- ③ 母子健康手帳にある出生時からの記録、予防接種の記録などを転記すれば、生涯にわたる健康情報を自己管理できる。この情報は留学などに際して重要である。
- ④ これまでの健康手帳は学校による児童生徒の健康管理が主体であったが、これからは個人による管理が望まれる。プライバシー保護のためにも手帳の管理は本人や家庭によってなされることが望ましい。
- ⑤ 生涯にわたる使用を考えるならば、必須な項目のみで充分。さらにその内容の更新も考慮する。内容を盛りだくさんにすると継続して使用されにくい。
- ⑥ 健康情報を自身で管理する意識を持つためには、健康教育・啓発が必要である。
- ⑦ 長年にわたって使用されてきた既存の（現行の）健康カードや手帳が存在するため、あらたな健康手帳は必要ないとの意見も多くみられた。さらに養護教諭の先生方からは、結果として事務量が増えてしまうのではという不安が寄せられた。

## E. 結論

主に保護者（特に母親）が管理する母子健康手帳に引き続き、小学校入学以降に本人が管理、使用していくあらたな学校における「健康手帳」のあり方について、アンケート調査をとおして検討を行なった。自身による健康管理や健康に対する意識づけに際して大変意義深い存在となるが、その内容検討や準備段階としての啓発活動に充分留意する必要がある。

アンケート調査にご協力いただいた全国の教育委員会および養護教諭の先生方に深謝致します。

## Microsoft Excel を用いた身体計測値のプロット方法に関する一案

加藤 則子（国立保健医療科学院 生涯保健部 母子保健室長）

**研究要旨** 小児の発育基準曲線上に小児の身体計測値をプロットすることは、小児の発育評価にとって重要なプロセスである。その簡便な方法として、Microsoft Excel を用いて厚生労働省の乳幼児身体発育パーセンタイル曲線に乳児の継続的な体重計測値をプロットすることを試みた。マクロ化を始めとしたユーザーコンタクトを検討してゆくことが、今後の課題である。

**はじめに** 小児の発育評価を適切に行うためには、一般的な発育基準と照らし合わせる必要がある。小児の発育評価は一度の計測のみによって可能なものではなく、継続的な計測による評価が必要である。継続的な身体計測値は、発育基準曲線上にプロットして観察することが望ましいが、この作業は縦軸と横軸の適切な交点を探すなど手間がかかり、また正確にこれを行うには慣れが必要である。これをパソコン上で数値を入力するだけでグラフ化できれば、基準曲線との比較が容易になる。ここでは、Microsoft Excel を用いて描かれた厚生労働省基準曲線の上に実際の乳児の発育経過をプロットする方法の開発を試みた。

**方法** 平成12年調査に基づく厚生労働省乳幼児身体発育値を横軸を日齢に換算してMicrosoft Excel に入力し、グラフを作成する。（図1）一度作成したこのグラフは何度も繰り返し用いる。

発育基準値を入力したセルの近傍に、発育経過を視覚化したい乳児の生年月日および計測年月日、計測値を入力する（図2）。2002年4月14日生まれの場合2002, 4, 14と横に3つのセルに分けて入力する。その右隣のセルに関数で「=date(2002のセル,4のセル,14のセル)」のように入力する。これによって日付値が与えられる。図では日付表になっている。次に計測日との日数差を計算する。関数によって日付値のセル同士の差を入力する。（「=2002/7/19のセル-2002/4/14のセル」のように、セルの書式設定→表示法で「標準」にする）これが日齢にあたる。この日齢の横に計測値を入力する。

発育基準のグラフをMicrosoft Excel 上で選択する。ステータスバーから「グラフ(c)」→「元のデータ(s)」と選択する。「系列」のタグを選択し、「追加」のボタンをクリックし、次に「Xの値」の欄をクリックする。シート上で、計算された日齢にあたる部分を選択する。さらに、「Yの値」の欄をクリックし、シート上で計測値にあたる欄を選択する。「OK」ボタンをクリックすると、グラフ上に計測データが描き加えられる。

**結果** 書き加えられたグラフは図2の通りである。グラフ上描き加えられた系列を選択し、好みの幅の折れ線に書式を設定する。

**考察** この段階では、とりあえずMicrosoft Excel でグラフを重ね描きすることが出来たというだけであるので、さらに使いやすく必要がある。指定の場所に生年月日、計測年月日と計測値を記入するだけで、グラフ描画に至る事の出来るマクロの開発、さらに対話形式で入力可能にするようなプログラムの開発が今後の課題である。

図1

	c3	c10	c25	c50	c75	c90	c97
0	2.23	2.52	2.76	3.00	3.26	3.51	3.79
1	2.18	2.47	2.70	2.93	3.18	3.43	3.70
2	2.16	2.44	2.67	2.89	3.14	3.39	3.65
3	2.17	2.46	2.69	2.92	3.17	3.41	3.65
4	2.21	2.50	2.73	2.97	3.22	3.47	3.69
5	2.25	2.55	2.78	3.02	3.28	3.53	3.74
6	2.29	2.59	2.83	3.08	3.34	3.58	3.80
7	2.33	2.64	2.88	3.13	3.39	3.63	3.85
20	2.90	3.22	3.50	3.80	4.12	4.39	4.62
25	3.10	3.43	3.71	4.02	4.37	4.66	4.92
30	3.29	3.63	3.91	4.24	4.60	4.92	5.20
35	3.47	3.82	4.11	4.46	4.84	5.20	5.50
40	3.63	4.00	4.30	4.67	5.07	5.44	5.78
46	3.82	4.21	4.52	4.90	5.32	5.71	6.09
61	4.25	4.70	5.04	5.47	5.93	6.36	6.78
76	4.63	5.14	5.52	5.97	6.47	6.94	7.40
91	4.97	5.50	5.90	6.39	6.92	7.41	7.90
107	5.31	5.84	6.26	6.78	7.33	7.85	8.36
122	5.59	6.11	6.55	7.08	7.66	8.19	8.72
137	5.85	6.35	6.80	7.35	7.94	8.49	9.04
152	6.08	6.56	7.03	7.58	8.19	8.75	9.31
167	6.29	6.75	7.22	7.79	8.41	8.98	9.55
183	6.49	6.95	7.42	8.00	8.63	9.21	9.79
198	6.66	7.10	7.58	8.16	8.80	9.39	9.97
213	6.79	7.23	7.72	8.31	8.95	9.54	10.13
228	6.91	7.36	7.85	8.45	9.09	9.65	10.26
244	7.03	7.49	7.98	8.58	9.21	9.78	10.37
259	7.15	7.61	8.11	8.70	9.34	9.92	10.49
274	7.26	7.72	8.22	8.82	9.46	10.04	10.61
289	7.36	7.82	8.32	8.93	9.57	10.15	10.73
304	7.46	7.92	8.42	9.03	9.67	10.26	10.83
320	7.56	8.02	8.52	9.13	9.78	10.36	10.95
335	7.65	8.12	8.62	9.23	9.88	10.46	11.07
350	7.73	8.21	8.72	9.33	9.97	10.57	11.18
365	7.81	8.30	8.81	9.42	10.07	10.67	11.31

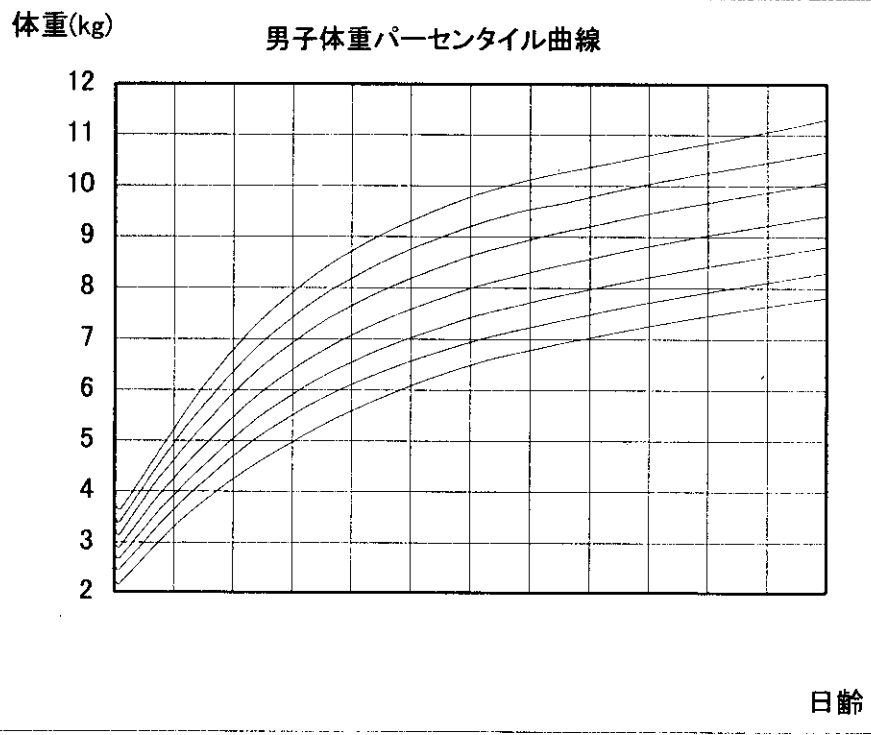


図2

年月日	日付値	日齢	計測値		
2002	4	14	2002/4/14	0	2.96
2002	5	17	2002/5/17	33	3.78
2002	7	19	2002/7/19	96	6.02
2002	11	16	2002/11/16	216	8.56

↓ Xの値として入力      ↓ Yの値として入力

